論文

都筑区の早渕川・老馬谷ガーデンプロジェクトとその役割

飯島　健太郎　　室田　昌子　　吉﨑　真司

2017 年 3 月，早渕川沿いの幅 8m，長さ 180m の長大な空き地が，地域の方々が集う緑地として誕生する．「早渕川・老馬谷ガーデン」と命名された本緑地は，都市緑化よこはまフェア・18 区連携事業・都筑区花いっぱい運動などの事業を中核として実現するものであり，まちづくりに関わる官民学の 10 年にも及ぶ検討を礎としている．市有地を活用した本緑化プロジェクトのために行政上の手続きを区が調整，地域の NPO とともに東京都市大学の学生が連携して緑地の造成を担った．本プロジェクトにより，まちのにぎわい，防犯，健康，環境対策をその役割として掲げ，管理運営を模索するものである．

キーワード：老馬谷ガーデン，都市緑化フェア，都筑区，まちづくり

1　はじめに

2017 年 3 月，早渕川沿いの幅 8m，長さ 180m の長大な空き地が，地域の方々が集う緑地として誕生する．都市緑化よこはまフェア・18 区連携事業，都筑区花いっぱい運動などの事業を中核として実現するものであり，まちづくりに関わる官民学の 10 年にも及ぶ検討を礎としている．この緑地は，造成期間中に「早渕川・老馬谷ガーデン」と命名された．

本報では，緑地が誕生する背景となった計画から，緑化フェアを機にどのような緑地を設計デザインしたのかについて紹介したい．まちのにぎわいと魅力アップ，防犯，健康，環境対策をその役割として掲げ，本緑地の今後の管理運営を模索するものである．

2　中川まちづくりプランとその重要性

老馬谷ガーデンの展開には，15 年近くにわたる住民参加の中川まちづくりの歴史が背景にあった．中川駅周辺地区は，港北ニュータウン開発により誕生した．その後，地下鉄が開通し，23 年が経過した．中川駅周辺には，多くの公園，里山や緑道と早渕川，農業地域があるため，生活利便性のみならずに魅力的な生活環境を創出している．

港北ニュータウン開発方針には「住民参加のまちづくり」が掲げられ，地権者，住民，様々な団体，グループがまちづくりに携わってきた．平成 17 年度に「横浜市地域まちづくりグループ」に登録し，中川駅周辺で活動している「NPO 法人ぐるっと緑道」が地域住民，地域活動団体，学校等に参加を呼びかけ，行政とも協力し，花と緑のまちづくり（中川ルネッサンスプロジェクト），コミュニティカフェ等のまちづくりが行われてきた．そして平成 28 年「都筑区まちづくりプラン」制定を機にその地域版ともいえる「中川まちづくりプラン」が同年 7 月にまとめられている．

以下，中川まちづくりプランの内容である．

(1)「中川まちづくりプラン」の背景

「都筑区まちづくりプラン」は，市民に近い行政単位である区の将来像を示すとともに，市民との協働でまちづくりを進めていくうえでの基本方針を示している．全体構想に記載される横浜市全体の都市計画の指針としての内容を踏まえ，区の将来像やまちづくりの方針，区ごとの土地利用の方針等について，必要な事項を記載するものとなっている．平成 14 年に横浜市都市計画マスタープラン都筑区プラン「都筑区まちづくりプラン」を策定してから 10 年以上が経過し，①上位計画である横浜市基本構想（長期ビジョン）の策定や，②横浜市都市計画マスタープラン全体構想の改定，③平成 14 年に策定した都筑区まちづくりプランの計画内容の進展，④社会経済状況の変化などから，プランの見直しが必要となったため，説明会，区民意見募集を経て平成 28 年 3 月に，「都筑区まちづくりプラン」が改定された．

この「都筑区まちづくりプラン」では，区民，事業者，行政がパートナーシップを基本としてまちづくりに取

IIJIMA Kentaro
東京都市大学総合研究所教授
MUROTA Masako
東京都市大学環境学部環境創生学科教授
YOSHIZAKI Shinji
東京都市大学環境学部環境創生学科教授

り組んでいく方針となっている．そして，区民は地域に関心を持ち，行政の施策や事業に対する積極的な参加や提案，地域の課題解決のために地域主体でまちづくりに取り組むことが求められている．また横浜市には「地域まちづくり推進条例」があり，「地域まちづくりへの市民等の参画の権利と義務」と「横浜市との協働」等が定められている．そこで，「都筑区まちづくりプラン」に基づき，地域の課題と解決の方向性を指し示す「中川駅周辺地域まちづくりプラン（中川まちづくりプラン）」を地域参加でまとめ，住みやすいまちの実現を図る活動を開始した．

検討のスローガンは，「緑豊かで安全で楽しいまちに！」，「子供に高齢者にも優しいまちに！」，「地域の参加で共に作るまちに！」となっている．

(2)「中川まちづくりプラン」とは

「中川まちづくりプラン」は，「都筑区まちづくりプラン」をもとに中川駅周辺地域に特化し，具体的な問題と改善案を地域の合意で作成したまちづくり目標である．

その実現方法は，① 都筑区に依頼，地域も協業し実現② 地域の自主的な活動で実現する

これまでの検討経過は表1に示した．

中川まちづくりプランは，検討会の議論に基づき，①里山/公園/緑道の魅力アップ，②早渕川周辺の魅力アップ，③中川駅周辺のバリアフリー，④自転車と歩行者の安全，⑤都筑区らしい文化の醸成，⑥地域活動の担い手を増やすとなっており，地域の大学としての役割も重要な要素となっている．

表1　検討会の経緯

第1回検討会	平成27年10月4日 ・区役所から「都筑まちづくりプラン原案」の説明 ・「都筑まちづくりプラン」主要テーマについて地域の課題抽出
第2回検討会	12月5日 ・「自転車問題，バリアフリー問題」の現場検証
第3回検討会	12月20日 ・「里山/公園/緑道問題，早渕川の魅力アップ」検討
第4回検討会	平成28年2月6日 ・「ボランティア，町内会/自治会等地域活動の担い手を増やす」検討 2月13日 区役所主催「歩行者・自転車の安全対策意見交換会」 ・自転車問題現場検証結果を報告
第5回検討会	5月15日 ・「中川まちづくりプラン原案」について意見交換 6月 地域の町内会，自治会，公園愛護会にプランに対する意見アンケート実施
第6回検討会	7月24日 ・「中川まちづくりプラン修正案」，「中川まちづくり連絡会発足」決定

中川まちづくりプランの実現を図るため，関連団体，市民，都筑区役所などによる「中川駅周辺地域まちづくり連絡会」(中川まちづくり連絡会)」が発足した(表2)．実行に関しては，プランに記された地域主管団体，あるいは「中川まちづくり連絡会」が協力して，行政と実現を図っている．表2中に示すぐるっと緑道は、先の地域まちづくり推進条例の「地域まちづくりグループ」に平成18年より登録し，市の登録団体という位置づけと市から協力を得やすいという立場が確保されていることもあり，様々な活動を実現している．

3　早渕川の魅力アップに向けて

中川まちづくりプランの重要な要素の一つに早渕川周辺の魅力アップが掲げられている．地域内の早渕川流域の現状と課題として，以下の内容がまとめられている．

(1) 現況

早渕川は青葉区から中川3，4，8丁目を流れている．川の周りは中川3丁目付近が住宅地になっているが，4丁目，8丁目は水田，果樹園が広がる農業地帯となっている．川周辺の土地は大半が市街化調整区域となっているが，資材置き場，住宅も建てられてきた．川沿いの道は大半が車の進入が禁止され，田園風景と鯉や白鷺を見ながら散歩やサイクリングできる場所となっている．

(2) 課題

早渕川流域の素晴らしい緑と水の自然を将来に引き継ぎ，老若男女が楽しく健康的な生活を送れる環境を整備していく必要がある．都市化により壊された環境は，後戻りすることはできないので，10年先を考えた環境の保護，魅力アップを行っていく必要がある．早渕川側

表2　中川まちづくり連絡会

(1) 目的 中川まちづくりプランの実現を図る．
(2) 構成 まちづくりプラン対象地区の町内会，自治会，地域活動グループ/団体，公園愛護会，学校，事業者，関心のある個人，都筑区役所等によって構成する．
(3) 開催 実施状況報告，区役所の実施状況報告，進め方等の意見交換を行うために，毎年2回程度定例開催する
(4) 事務局 NPO法人ぐるっと緑道が事務局を担う．

写真１　鍛冶橋から対象地全景

写真２　対象地の中央から不動尊口方向

道の改善，早渕川の改善のほか，鍛冶橋付近の公園化が検討された（写真 1，2）．これは約 10 年前に検討が行われた「水と緑の魅力アップ推進委員会報告書」の第 3 部会報告書のうちの市有地の活用の項目にある．「西の拠点」として，鍛冶橋付近の残地を公園化して活用しようという提案だった．この残地は，横浜市の市有地ということで，パースを作成するまでに現地踏査と市の管轄部署との連携が行われた．通過交通車両も少ないので，ルート整備さえはっきりさせれば十分整備可能な案とはなったものの，予算面での折り合いがつかず実現には至っていなかった．

4　早渕川・老馬谷ガーデンプロジェクトの始動

前述の検討を経て，2017 年 3 月から開催される「第 33 回全国都市緑化よこはまフェア」，18 区連携事業・都筑区対応の一環として，中川 3 丁目早渕川沿いの市有地に，市民（事務局 NPO 法人ぐるっと緑道），都筑区役所と東京都市大学が協力し，2017 年 3 月の完成を目標に緑地を作るプロジェクトが始動した．

区政推進課は本プロジェクトの具現化のため対象地である市の道路用地を借り上げるための手続きを初めとして行政上の手続きに尽力している．

市民が楽しみ，そして将来にわたって大切にしてもらうべく，NPO ぐるっと緑道が，地域への本プロジェクトの広報，イベント企画に尽力している．

東京都市大学は，都筑区との包括協定を背景として，本プロジェクトの覚書を交わすことにより具体の活動を開始した．同大学　飯島研究室による緑化構想，計画を基に学生を募り，環境学部の 2 年生，1 年生（後に都市緑化研究会・有志団体）がこのプロジェクトの参加に手を挙げた．また桐蔭横浜大学の環境向上委員会の学生も加わった．後述するが，対象地の地盤造成作業，緑化植栽作業，イベント運営など，あるときは土方，あるときは地域交流のスタッフとして学生らは積極的に取り組んだ．

検討の過程で，地域の歴史に詳しい市民からのお話もあり，地域の旧地名に因み，「老馬谷ガーデン」となった．

この辺りは，江戸時代，大山街道が通り，老馬鍛冶山不動尊の霊泉の滝があり，荏田宿の入口でもある歴史スポットであり，ニュータウン開発前は「老馬谷（ロウバヤト）」と呼ばれていたこともご教示頂いた．

常に 3 者が協力して維持管理と運営に尽力している．あらためて，区，NPO，大学の連携の重要性と実現パワーの相乗効果を感じた次第である．

5　対象地の造成から緑地化構想，そして植栽

都市緑化よこはまフェアという祭典にふさわしい花と緑の彩り・香りの演出を伴う散策園路とともに，その後も地域の集い・賑わい，防犯，防災，環境学習の場として役割を果たすような空間を目指して議論を深めた．

(1) 全体構想

180m にも及ぶ長大な帯状の空間に花もの，クローバー，香りのツル植物で覆い，鍛冶橋口から不動尊口まで散策路で結ばれる．中川の住宅地側からは中央口があり花壇を降りて対象地に入ることができる．中央口からは全体の景観を見通すことができる．中央から鍛冶橋口方面は，「彩りと都市緑化エリア」として彩りのある園芸植物を中心に展開，春の花景観はナノハナ，ネモフィラ，ポピーとした（写真 3）．ハーブコーナーもある．中央口から不動尊口方面は，「生態的空間と歴史エリア」として，野草や和物の中低木も導入している（写真 4）．春の花景観としてはナノハナとしている．実のなるコーナーもある．また道路境界の単管を活用し，ツル植物によって季節の香りの演出を図ることとした．こうした植栽プランによって，歩いて楽しい，花や香りで季節を感じ，収穫も出来るようにし，地域の方々が関わり楽しみや健康を得ることのできるデザインを試みた．

一方，ここに緑地がある防災的意義にも言及したい．付近や下流は，避難判断水位近くまで達することもある．住宅地，道路に降った雨はそのほとんどが河川に流

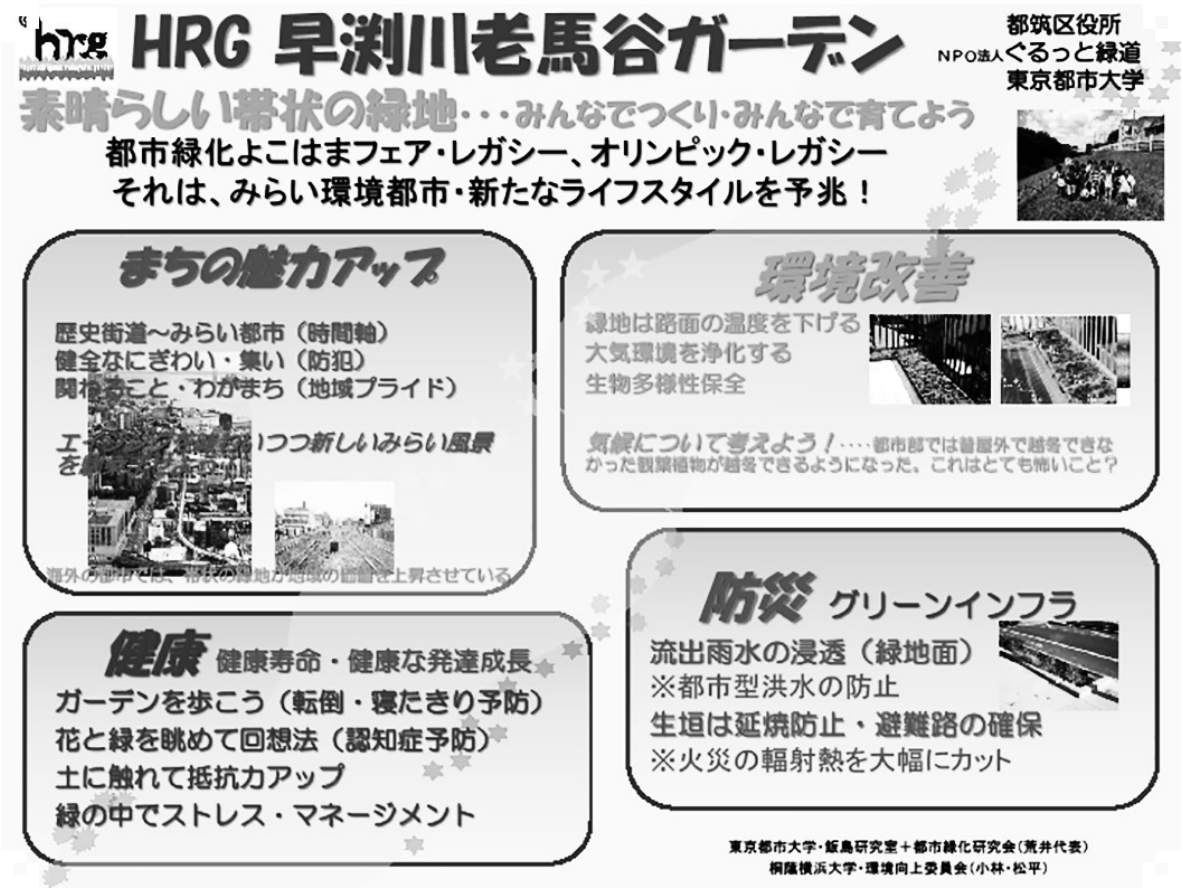

図 1　本緑地の役割を示したチラシ

写真 3　中央から鍛冶橋口方向／都市緑化エリア

写真 4　中央から不動尊口方向／自然エリア

れ込むのであるから谷戸地に存在する早渕川周辺もそうしたリスクがある．先に述べた対象地はこれまで雑草の繁茂が著しい空き地であった．ここが雑草対策のために簡易アスファルト舗装されてしまわなかったことは重要であり，今後，管理された緑地として長大な流出雨水浸透面となることはグリーンインフラの一つとして当該敷地は重要な意味を持っている．

(2) 対象地の造成

対象地はイネ科草本やクズがはびこり，区による本格的な除草と天地返しが行われた．それでもなお，耕せば大量のクズの根，ロームの塊，石ころ，コンクリート片などが掘り起こされ，ガーデンを造成するには極めて厳しい条件であったが，地道に培地の造成や石ころの撤去などにあたった（写真 5）．掘り起こし作業において，あまりの硬さにスコップ等の資材が 5 本以上破損した．

(3) 園路形成

ガーデン内の散策路として園路を設けた．舗装するか，竹チップを敷設するかなど議論されたが，現状では土壌のままとする案である．園路の縁取りには，対象地の整備で大量に発生したローム塊，石ころ，コンクリート片を活用して，搬出する廃棄物の減量を図った（写真 6）．

写真５　植栽ができる条件とするため耕耘

写真７　曲線を描く園路

写真６　発生した石ころ等を活用した園路の縁取り

写真８　縁取り植栽など各所に用いられているボックスウッドの搬入

両端の入り口からは園路はほぼ直線で推移するが，中央口から不動尊口方面 20m にわたって園路は S 字を描き，かつ若干の高低差をもたせ，風景の変化をもたらしている（写真 7）．造成とともに縁取りを形成するための生垣用樹木も順次搬入した（写真 8）．

一方，一部に擁壁からの排水によって，広範囲に湿地化している箇所もあった．その部分については排水溝を設け，園路が湿地化しないように配慮した（写真 9）．

(4) クローバー・レンゲの広場

最も広い面積を占めるクローバー広場は，土留め目的とともに芝生のように立ち入って楽しめる空間となる．花摘み，花輪づくりなどのイベントも想定される．区による除草，耕うんとともに吹き付け播種が実施された（写真 10）．

(5) 季節の開花景観

都市緑化フェア期間中に中央ステージ付近（写真 11），クローバー広場と通路の境界など帯状の長大な空間が花畑となる．

中央ステージから鍛冶橋方面にかけて，チューリップの球根の植え付けとともに，ナノハナ，ネモフィラ，ポピーが播種され，オープン頃からの開花が期待される．

写真９　排水処理

写真 10　クローバーエリア／種子吹付による

おそらく新石川付近を走行する市営地下鉄の車窓からも帯状の花景観を一瞬見ることが出来るだろう.

(6) 野草空間

生態的なエリアには，野草としてホトトギスなどを植栽した．和の趣きの演出に備えた．冬季の植栽であり，地上部も無く，あらかじめ養生していた宿根部分を植栽エリアにすき込んだ.

(7) のり面保護と雑草押さえの緑化ユニット

対象地は側道に向かって傾斜面となっており，その上部はクローバーが押さえの役割を果たしている．下部については新しい手法として，屋上緑化用の多肉植物ユニットの敷設を試みた（写真 12）．ユニット移動用ラックによる効率的な輸送と敷設を試みた（写真 13，14）．草種はセダム・キリンソウとして，立ち上がる株と黄色の開花景観も楽しめるものとなっている．緑化ユニットのケースは，50cm × 50cm，深さ 7cm となっており，2 列を総延長分敷設した．耐乾性に富む草種であるため，今後も原則降雨のみで生育が可能である.

写真 11　花畑エリア／中央ステージ

写真 12　土留めに用いられた薄層緑化ユニット

(8) 花と香りのツル植物

対象地は河川管理道路との間に単管パイプによるフェンスが設置されている．緑地化に伴いこれを撤去することも議論されたが，撤去の負担を勘案し，むしろこのまま生かす方向に意見がまとまった.

単管パイプをツル植物による演出の支持資材とした

写真 13　薄層緑化ユニットの搬出時

写真 14　薄層緑化ユニットの敷き並べ現場

写真 15　ツル植物を誘引する単管パイプ

（写真 15）．草種はテイカカズラ，ハゴロモジャスミンとして緑化フェア期間中の花と香りの演出を目指した．植栽本数は，懐かしい和の甘い香りのテイカカズラ 40 本，春の香りの象徴ハゴロモジャスミンを 20 本導入した．香りのまち「中川」に，もうひとつ香りの名所となることが期待される．

(9) 擁壁面・コンクリート面の簡易緑化

対象地は，無味乾燥な隣接に擁壁面が，その裾に長大なコンクリート面が連なっている．近年の都市緑化技術を導入すれば，本格的な壁面緑化の設置も可能であるが，このプロジェクトでは，簡易な方法でかつ維持管理の省力化も考えて導入した．その一つはセダムマット植栽である（写真 16）．不織布マットに薄く敷かれた培土にマット状にセダムが根付いているので，これをコンクリート面に敷設すればよい．セダム・パリダムが中心に植栽されており，4 月～ 5 月に白花景観が広がる．厚く土を敷かなくても緑化ができる．セダムであるので開花景観も楽しめる．

写真 16　マット栽培したセダムの敷設

写真 17　フラコン・緑化ユニットの立て掛け

もう一つは，少し厚みを持たせた緑化基盤である（写真 17）．フラワーコンテナを活用して，軽量土を充填しセダム類が植栽されている．これを壁面に立て掛けただけのものである．ツルマンネングサを中心に植栽されているので，春先から旺盛に茎を伸ばし，4 月～ 5 月には黄色の花を開花させる．今回，新しい試みとしてこの基盤にハナニラの球根を仕込んであり，自然の土手をイメージしている．いずれもセダム類を中心とした植栽であり，基本的に降雨のみで生育できることを想定している．

擁壁は重要な構造物ではあるが，景観的にも熱環境として厳しいものがある．この人工面を隠して自然風の演出ができることを表現した．夏季には，輻射熱の軽減作用を調査したい．

(10) 和風庭園風の空間

対象地は谷戸地であるが，その中に和風庭園風の空間を小さな谷戸地形に模して再現した（写真 18）．この緑地にさらなる奥行感をもたらしている．傾斜面の植栽にフィリフェラオーレア，アクセントとして，ナンテン，サザンカなど和物の中低木を植栽している．

(11) ダイコンドラの小さな丘

中央ステージから新石川方面の約 20m は起伏のある地形と S 字の園路を造成した．園路を道路側や擁壁側にふることによって若干広い空間が得られ，そこに芝生のような空間を創出した．本当の芝生では維持管理が大変であるため，ダイコンドラの丸い小さな葉で地面を被覆するべく植栽と播種を併用した．

(12) 生垣と下垂植物

中央ステージは，道路面からコンクリートが約 1m 立ち上がっている．ステージ上は前述のとおり，ネモフィラ，ポピーの花畑となるが，その後は広場となる可能性

写真 18　和風庭園空間

もある．道路への人の転落を防止するためボックスウッドによる生垣を構成した（写真 19）．なおボックスウッドは，各所の空間の境，目隠しに導入した．葉が小さく，細かなテクスチャーの本種を植栽することによって，本緑地の風景に奥行感が増す．

ステージの 1m 立ち上がったコンクリートもまた無味乾燥なイメージであり，今後の下垂成長を期待して，明るいイメージの斑入ツルニチニチソウ，乾燥に強いアプテニア，デロスペルマ・レイコー，マツバギクなどを植栽し，カラーリーフと花景観を楽しめるようにした．

（13）南国植物のコンテナ植栽

一部にサボテンのコンテナを配置した（写真 20）．象徴的なフォルムから異国の地に自生する耐乾性植物の生理生態の工夫を学ぶとともに，南国らしい光沢のある花を楽しむことができるようにした．場違いとも言えるこうした植物を演出することによって発信したい重要なメッセージは環境の変化である．数十年前まではこうした植物は越冬できなかったが，近年の温暖化で都市部では観葉植物が容易に露地で越冬している．同じようにこれまで日本で越冬生息できなかったような病原菌も蔓延する可能性がある．冬の気温が上がることは一見我々にとって過ごしやすいことではあるが，熱帯・亜熱帯の病原菌の上陸と流行のリスクも含んでいること，観葉植物が越冬している風景はそうした警鐘とも捉えてほしいものである．

写真 19　ステージからの転落防止用の生垣植栽

写真 20　ウチワサボテンのコンテナ植栽

（14）丈夫な野菜の菜園

菜園は，防災緑化という提案から生まれた．連日の給水や虫の駆除など手厚い手入れは出来ない環境であるため，丈夫な野菜を放任栽培するエリアとする．対象地には元々ニラが植えられており，これをまずは移植して，列植した（写真 21）．今後さらに丈夫なナス，ミニトマト，オクラ，ヤマノイモなど植栽する予定である．時にイベントでの収穫物とし，またいざという時に食料として活用できるようにしたい．

（15）トピアリー

トピアリーとは樹芸のことである．ディスニーランドにあるミッキーマウスの形に剪定されたツゲなどが代表例である．

この緑地でも，数体のトピアリーを配置する予定である．ただし樹木の剪定による整形ではなく，水ゴケを充填した亀甲金網整形として，表面にセダムを挿し木する方法とする．耐乾性に富むことや，セダムの細かなテクスチャーからも適正な方法となっている．

クマなどを試作中である．早渕川沿岸であることから，「カッパ」も検討中である．子どもたちがともに撮影対象となるような人気のマスコットとなればと考えている．

写真 21　菜園コーナー

（16）ビオトープ風空間

ビオトープ造成による生物生息空間の議論は簡単ではないが，各地で試みが行われている．その主体（対象生物）が何で，どのような質の空間とするのか，そして主体にとってどれだけの広さで，どういう配置が適切なのか，そしてその期間はどうなのか，といった体系的な考え方がある一方，本現場が住宅地であり，多用途との関係もあり難しい面もある．しかし何らかの貢献の仕方，周辺生息域と本対象地の関係などからの提案もあるかも知れない．隣接に早渕川があることも重要な関係性である．この点は長期的に議論を重ねながら生物生息空間としての空間整備も視野に入れていきたい．

5　イベント

本プロジェクトは緑地が完成すれば成功ではない．そこに集う地域の方々や学生にとって有効に活用されていくこと，すなわち地域の魅力と活気の拠点となることが重要であるが，言葉で綴るほど簡単な話ではない．有効利用の背景には，維持管理という命題もある．行政から与えられる仕組みから，地域から作り上げていき行政がサポートをする仕組みに発展させていくことが重要であり，本プロジェクトはオープン前から各種のイベントにより，周知とともに地域のファンづくりに努力した．この点ではNPOぐるっと緑道のノウハウとともに尽力して頂いた．

（1）早渕川・老馬谷ガーデン（HRG）用地のクリーン作戦実施

9月3日（土）午前，鍛冶橋付近の早渕川クリーン作戦が行われた．主催の早渕川ファンクラブと江田小PTAと子供達，河川管理事務所等約50名が川の中と側道のゴミ拾いや川の中の生物観察等を行ったが，本プロジェクトから区役所区政推進課，プロジェクト協力メンバー11名が参加し，早渕川横の対象地のクリーン作戦を実施した（写真22）．用地は夏前に草刈りを行ったものの，再び著しい繁茂状態で，約1時間半，草刈りをしながらゴミ拾いを実施した．最後に早渕川クリーン作戦の参加者にこの緑地化プロジェクトについて区政推進課より解説が行われた．

（2）中川まつりにおける広報

恒例の中川ふれあいまつりにおいて，本プロジェクトの紹介ブースが配置された．都市緑化よこはまフェアの案内，本プロジェクトの紹介，地域との花植えイベント

写真22　草刈りイベント

写真23　中川ふれあい祭りにおける普及活動

図2　イベントの広報チラシ

写真 24　花植え・種蒔きイベント

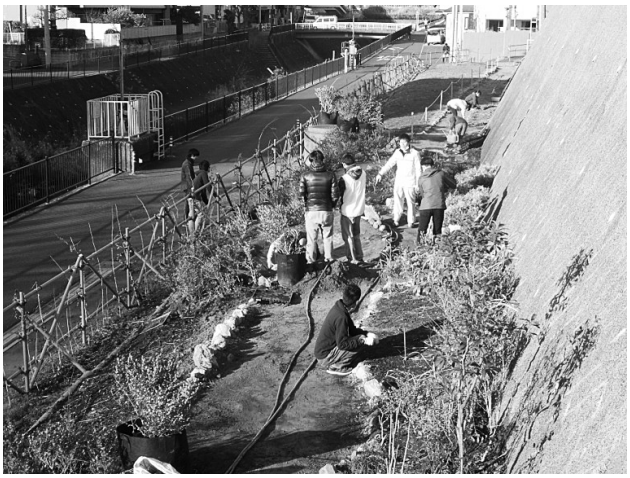

写真 25　定例の維持管理作業に参加する学生

の紹介チラシの配布を行った（写真 23）．希望者に都市緑化よこはまフェアの記念グッズや苗配布も行ない，都市大の学生がそのスタッフとして尽力した．

(3) 花植えイベント

11 月 13 日（日）10：00 から，中川 3 丁目の早淵川沿いに市民参加で作っている「早渕川･老馬谷ガーデン」の種まき，花植えイベントが開催された（図 2，写真 24）．参加者はガーデンに近い中川 3 丁目，荏田町の方が多く 51 名，主催者側を入れると 75 名の盛大なイベントになった．区長や議員も地域の方々とともに活動された．

この日，江田小学校等の子供の参加も多く，「土に触れて楽しかった」「成長が楽しみ」などの意見も寄せられた．参加者アンケートでは，今後も手入れなどに参加したいという回答があった．

その後も，第 1 土曜日 10：00 ～ 12：00，第 3 水曜日 13：00 ～ 15：00 を基本に，花植え，除草，石ころ除去などの地域活動を行っている（写真 25）．

6　おわりに

緑化が完成したら本格的なプロジェクトの始動である．それは都市緑化よこはまフェアの期間に華々しく演出して来場者に楽しんで頂くこと以上に，その後未来にどのようなメッセージを発信していくかにかかっている．今流行の言葉でもあるレガシーを考えることである．

地域の魅力アップ，環境貢献，防災，健康に資する緑地の機能を発揮し，それらの機能を維持するためにも緑地の管理運営にご理解とご支援が必要である．

最後に，都筑区区政推進課，NPO ぐるっと緑道のご支援ご協力に深甚の謝意を表するものである．

参考文献

［1］　都筑区（2016）：都筑区まちづくりプラン
［2］　中川まちづくりプラン検討会（2016）：中川まちづくりプランについて
［3］　NPO 法人ぐるっと緑道（2016）：市民参加で「早渕川・老馬谷ガーデン」建設開始，ぐるっと緑道 第 44 号
［4］　NPO 法人ぐるっと緑道（2016）：早渕川・老馬谷ガーデン花植えに 75 人，ぐるっと緑道 第 45 号
［5］　NPO 法人ぐるっと緑道（2017）：早渕川・老馬谷ガーデンづくり進む，ぐるっと緑道 第 46 号